

拠点名称：次世代和牛生産システム構築拠点

代表機関	北海道大学	プロジェクトリーダー	後藤 貴文 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授
幹事自治体	白老町	幹事機関	株式会社 敷島ファーム
参画機関	慶應義塾大学、九州大学、帯広畜産大学、鹿児島大学 大樹町、株式会社神戸デジタル・ラボ、ファームエイジ株式会社、株式会社三菱UFJ銀行		

プロジェクトの概要

新しい生物学概念「代謝プログラミング」により牛の代謝を早期に制御し、飼料には、地方にある限界集落、中山間地域・離島等の豊富な植物資源を放牧活用し、その管理には先端の宇宙技術を駆使する。Z世代が中心となり、地方の景観を持続的に維持し、安全・安心な食料を豊かに、スマートに生産する。そして、Z世代の農業者が未来に希望をもち、産業として世界と戦えるよう畜産業を構造改革する。Z世代が、スマート放牧管理により導く、地方の農産物を基盤とした革新的な地域社会を実現するものである。地域に牧歌的な景観をもたらし、若者が地域に根差し、スマートフォンを基盤とした自由な農業により、地域の植物資源からタンパク質を生産することによりマネーフローを持続的に展開し、Z世代の新しいライフスタイルを実現する社会を構築する。

ビジョン：スマート放牧管理で **Z世代** が導く革新的な地域社会の実現

食料生産を基盤とした人が集まる地域社会とその発展



美しい地方景観の維持
景観を作る農業
放牧により荒地や耕作放棄地を整備



若年家族の地方移住
儲かる農業
データサイエンスを基としたビジネス構築



スマート放牧管理
牛・土壌の状態を
スマホを使ってリモート管理



アニマルウェルフェアを考慮したマーケット
(日本ではまだ未構築)



最新技術を使った**データ管理ビジネス**



バイオファクトリーによる**牛の糞尿の農地再利用**



消費者ニーズに合った牛肉の提供
(**エシカルマーケット**)

地域資源と共生した放牧技術

「北海道大学の知」と「Z世代」で畜産のGAME CHANGE

大学がかわる

北大が、多様なステークホルダーとの対話、地域共創によって社会変革をリードする。エクステンション力の強化。

ヒトがかわる

若い農業者が、未来に希望を、地域に誇りをもち、デジタルデータを基盤とした農業をもって世界と戦う。

社会がかわる

社会が、生産者と家畜のQOL、自然環境、地域社会の持続可能性に新たな価値創造を起こす。構造改革。